

壊すの反対！ではなく

残すの賛成！のためのアートプロジェクト

奔別アートプロジェクトの会場となっている旧住友奔別炭鉱。ここには、長さ100mもある国内最大級のホッパー（石炭積出施設）や、ドイツの技術を導入し当時は東洋一と言われた立坑など、炭鉱を理解するための貴重な施設群が残っています。

これら炭鉱遺産は、明治期の北海道開拓や日本の近代化、戦後の経済復興を支えてきた、空知産炭地域の歴史の象徴です。また、炭鉱で働き暮らしてきた人たちの、誇り・思い・技・記憶を、未来へ伝えるための大切な手がかりでもあります。

空知産炭地域の炭鉱遺産は、無用の遺物として、顧みられることはありませんでした。今も劣化や解体によって、どんどんなくなってしまうという、危機的な状況にあります。

奔別アートプロジェクトにご来場された皆さんには、場の記憶をとどめた魅力的な空間でのアート展示を楽しんで頂くだけではなく、アートをきっかけとして、この場の意味を考えるスタートになって頂ければと思っています。

そして、「壊すの反対！」ではなく、「残すの賛成！」という声を、様々な場面で多くの方に伝えて頂けることを願っています。



そらち炭鉱の記憶 マネジメントセンター 岩見沢市1条西4丁目3 infomc@soratan.com
〒068-0021 TEL0126-24-9901 〆0126-24-9902



立坑完成直後の1965年頃の住友奔別炭鉱